

まえがき

2010年。

「イクメン」という言葉が流行語大賞に選出された頃から、男性が育児に積極的に参加することがさかんに推奨されるようになりました。男性の育児取得が話題になるようになり、働き方改革が推進されていく中で、男性は仕事だけすればよいわけではなく、家庭でも夫として父親として生きていくこと、つまり、「理想のパパになること」を強く意識していかなければいけないようになりました。ただ、周囲の視線を過剰に意識してしまい、とても負担に感じてしまう男性も多いことでしょう。

でも、仕事をして家庭でも夫として父親として生きるって、結婚して子どもが産まれたら当たり前のことですよ、昔っから。問題はバランスだと思えます。

ひと昔前までは、「男は仕事、女は家庭」という思考が当たり前だったけど、日本の経済成長速度の鈍化、女性の社会進出や「働く」という価値観の変化などから、そのバランスが変わってきました。

そのような社会の変化の中で、枠組みだけが先行して推進され、ソフトの部分、要は、男性がどのよう家庭でふるまえばいいのかという観点でのサポートが非常に少ないと思います。

元々、家事が苦手というか、女性よりも家事に関わる機会が少ない男性が多いと思います。そして、準備する間もなく、父親になる。でも、できるだけパートナーの負担を減らそうと家事に奮闘するという話をよく耳にします。

ただ、家事のやり方がパートナーと違っていたり、そもそもスキルが低くダメだしをされることも多いと、結構へこんでしまいますよね。

育児に関しても同様のことが言えます。子どもが産まれるといっても、男性の体に変化はありません。だから、そもそも子どもを持つという自覚を持つのが女性に比べて圧倒的に遅く、出産後も女性の方が子どもと一緒にいる時間が長いので、育児でもリードするのは女性になってしまいます。それでも、男性は父親として頑張ろうとしているのです。

そこには、苦労や悩みも多いはずですが、男性はなかなか、その悩みを誰かと共有したり、相談したりするのが非常に下手ですよね。

どこかでガス抜きをしないとイケません……。

私が共同代表を務めるNPO法人オトノセナカの人気コンテンツ「パパノセナカ」は、パパ同士が平日の夜集まって子どものこと、パートナーのことなどをテーマに対話をするイベントなのですが、そ

のイベントに初参加のパパが、会場に入ってコートを脱ぎながら、他のパパに、「何回目の参加ですか？ いやあ、こういうふうに子どもを話せる場を探していたんですよー」って話しかけていたのです。

それを見て、「あつ、パパも子どものことを話したがっているんだ！」と強く感じました。

ただ、一日の大半を過ごす職場では、なかなか家族のことを話さないといい方も多いでしょう。そこには、職場は仕事の場で、プライベートは持ち込めないような雰囲気があるのかもしれない。また、仕事というのは共通の話題を見つけやすいけど、家族のこととなると相手の家庭状況を知らないと話づらいと感じているのではないのでしょうか。そして、子育てのこととなると、相手が、どれだけ子育てをしているのかわからずに、どこまで踏み込んで話をしていいか遠慮してしまう。そんな unnecessary 先読みがパパ同士のつながりを阻んでしまうのではないのでしょうか。

パノセナ力は100パーセント家族のことを話す場です。きつと、参加者の方も、ここでは遠慮なく家族のこと、特に、子どものことを話してもいい場なのだという思いがあるのでしょね。

私は、このような場、つまり、パパにとつての安全基地がこれからの時代必要になってくるのではないかと思っています。パパが、子どものこと、家族のことを遠慮なく話し合える友達を作ることが、この社会変化の中で大切なことだと思っています。